

「正しい」漢字って何だろう

By 関 麻由美 (津田塾大講師)

私はずっと留学生に対する日本語教育を行っています。いろいろな国からの留学生と関わる中で、彼らの学び方を見て、自分自身がどのように日本語を学んできたかについて改めて気づかされるが多々あります。漢字に関するそんな私の気づきをご紹介します。



◆漢字のフォントについて

あるとき、留学生が「民族衣装」の「民」と「衣」の字を明朝体のフォントそっくりに書いているのを見て、あれっと思いました。「民」の3画目と「衣」の4画目はかたかなのレの形のはずです。1画です。しかし彼女は2画で書いていました。「以」の1画目と2画目のようにです。かたかなのレのように書くのよと彼女に説明しながらも、彼女がそのように書いたのも無理ないなと思いました。電子辞書を見てみると、どう見ても、2画で書くとしか思えない形をしています。

私たちは子どものころから、大人が書いているのを横目で見育てます。また、学校教育においては、新しく学ぶ漢字を教師が黒板に大きく書いて見せます。書写の時間には筆を使って、止め、はね、はらいをしっかりと教わります。そんな日本の子どもたちと違って、漢字を学ぶ外国人学習者のほとんどは、漢字との最初の出会いは活字です。誰かが漢字を書いているのを見ることなしに学んできている場合が多いのです。

例えば、先ほどの「衣」という漢字。「衣」「衣」「衣」「衣」。日本の子どもたちは、これがどのようなフォントで目の前に現れたとしても、「衣」として認識し、教科書体の「衣」に近い形で普通は書くと思います。しかし、明朝体の活字からのみ学んだ学習者はこの字をどうとらえるでしょうか。レの部分を2画で書くものとして覚えてしまったとしてもいたしかたないと思います。まじめな学習者ほど、わざわざ2画で書いているかもしれません。よくよく気をつけて留学生の書いた文字を見てみると、「長」「食」なども同じような問題を含んでいました。うっかりすると見過ごしてしまいます。すでに見過ごしてきてしまっているかもしれません。つまり日常生活においては、この1画で書くか2画で書くかなんてことは、大した問題ではないことなのかもしれません。しかし、漢字検定などでは、これは当然×になります。

別の学習者から「以」という字を書いてみてくださいと言われたこともあります。その学習者は「衣」のように1画なのかあるいは2画なのかを、私に書かせることで確認したかったようです。電子辞書で見ただけでは、全く区別がつかないからです。また、どの漢字だったか忘れましたが、フォントの違いによって同じ漢字であることが認識できない人がいたこともありました。

「これとこれは同じ漢字ですか」と。このように、学習者にとって、活字のさまざまなフォントが学習上の問題になることがあるのです。

◆書き順について

留学生に板書してもらってびっくりすることの一つが書き順です。今まであなたはこんな書き順でずっと書いてきたの、と本当に驚かされることがあります。もちろん我々もすべて正しい書き順で書けるわけではありません。しかし、一応、上から下、左から右に書くというごくごく基本的な順番については、それほど違って書くことはないと思います。複雑な漢字を書くときは、左側の部分（へん）を書いてから右側（つくり）を、あるいは上の部分（かんむり）を書いてから下の部分をとというように、部首ごとに少しずつ順に書くのが普通だと思います。しかしながら、漢字圏でない学習者が書く漢字の書き順には、常識がひっくり返るようなものがあります。下から上に線を書くぐらいはまだましです。まったく自由奔放に好きなどころから好きな方向に向かって書いているのです。そんな書き方をしているのに、できあがった字を見るととてもきれいに書けているので、これまたびっくりです。留学生の書いた字を見て、小学生の息子は「すげーうめー」と言っているぐらいです。

ここでまた、考えさせられてしまいました。小学生のころから叩き込まれてきた書き順とはいったい何だったのだろうと。国語の試験にも、漢字の筆順の問題が出てきます。でも、社会生活を営んでいて、書き順が問題にされることは小学校の教育現場以外ではなさそうです。その教育現場においてでも、教えている先生が間違った書き順で板書しているのを授業参観で何回も目撃しましたし、某進学塾の父兄会でも先生がでたらめの書き順で板書していました。留学生がとんでもない書き順で書いていても、できあがった字に何の問題もなければ、それでもいいのではないのでしょうか。書き順どおりに書いたほうが早く美しく書きやすいのではないかとは思いますが、崩し字でさらさらと書くようなことがないかぎり、もしかしたら書き順はあまり関係ないのかもしれないかもしれません。

フォントの問題にしても、活字ではこれだけさまざまなフォントが許容され、そして現実社会で我々が書く字はかなり形の崩れたものやいいかげんな字であっても通用しているのに対し、私たちが学校教育で許容される肉筆の漢字、つまり試験で×をとらない漢字のほうは極めて許容範囲が狭いのです。学生の書く漢字を通じて、子どもころからの教育のされかたと、現実とのギャップに改めて気づかされました。

現在私の担当している漢字のクラスでは、とめ、はね、はらいにはこだわっていません。認識できればいいという基準にしています。もちろん書き順については全く問いません。私たち自身がそんなに「正しい」漢字を書いていないのに、日本語の勉強、特に漢字に大変苦勞している留学生にこの上そこまで「正しい」漢字を強制するのは何かおかしくありませんか。